

幕府の政治と人々の成長

1 単元の概要

江戸時代、北九州市は譜代大名である小笠原氏の小倉藩、外様大名である黒田氏の福岡藩に分かれていました。本博物館をはじめ市内には江戸時代に関する様々な資料が残っています。それらを活用し、江戸幕府の政治の仕組み(大名支配・身分制度・交通政策・外交政策等)について学習していきましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 大名支配(大名行列・大名の配置・参勤交代・武家諸法度等)、農民に対するおふれ書き、街道整備、「鎖国」などについて調べ、これらの政策によって江戸幕府による支配体制が確立していったことを理解させる。
- 博物館の資料を活用して江戸時代のイメージをもたせながら調べる活動を通して、江戸幕府が支配体制を強めていったことを捉えることができるようにする。



豊前小倉図 宝暦年間 (1751 ~ 63)

3 指導計画(総時数5時間)

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 「大名行列」の絵を見て話し合う。 ① 行列の人数や持ち物 ② 行列を迎える人々の様子	◆ テーマ館通史イメージ映像「路-北九州の人々の歩みと交流-」のうち、街道や参勤交代の路の部分を活用。	1時間
II 幕府の大名支配について調べ、家光や支配される大名の立場で、それぞれの考えや思いについて考える。 学校での学習 ① 幕府がどのようにして大名を支配したのか調べる。 博物館での学習 ② 江戸時代初期の九州北部の大名配置について調べる。 ・細川忠興と小笠原忠真	○ 大名支配の政策(武家諸法度、参勤交代)を調べ、家光や支配される大名の立場に立って考えさせる。 ○ 博物館の資料をもとに九州北部の大名配置を調べ、豊前国に細川家や小笠原家など徳川家と結び付きの強い大名を配置した意味を考えさせる。 ◆ 細川忠興・小笠原忠真肖像画 ◆ 大名配置図(1601年)(1632年) ◆ 豊前小倉図	2時間
III 外国との交流がどのように変わっていったのか調べる。 ・キリスト教禁止や「鎖国」政策、「鎖国」下の外国との交流	○ キリスト教の禁止と「鎖国」政策とを関連的にとらえさせるとともに、中国などとの交流についても理解させる。 ◆ 文化の交流、外国の文化 ◆ 密貿易船打払い図	1時間
IV 幕府が行った身分制度や人々の暮らしの様子を調べる。	○ 農民に対するお触書などから、身分制度が確立したことをとらえさせる。	1時間

4 学習展開例(2時間扱い)

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
① 幕府がどのようにして大名を支配したか調べよう。 I 全国の大名配置図から、幕府の考えた大名配置の工夫について考える。 ・徳川家光 ・親藩、譜代、外様の配置 II そのほかにも幕府が行った大名を支配する工夫について調べる。 ・武家諸法度 ・参勤交代	○ 徳川家光の人物像について調べさせ、大名の力を弱めるために知恵を働かせたことを理解させる。 ○ 全国の大名配置図から、大名配置の工夫について気付かせる。 ○ 幕府の大名支配について、幕府と大名それぞれの立場で考えさせ、260年に及ぶ幕藩体制の基礎が固まったことを理解させる。	学校での学習 1時間
② 江戸時代初期の九州北部の大名配置について調べよう。 I 2枚の大名配置図から、2人の藩主細川忠興と小笠原忠真について調べる。 ・大名配置図(1601年)(1632年) ・徳川家と細川忠興、小笠原忠真 II 常盤橋や小倉藩城下町の模型や解説パネルから、豊前小倉藩の重要性について調べる。 III 細川忠興と小笠原忠真を豊前小倉藩の藩主としたわけについて考える。	○ 1601年と1632年の大名配置図を比べ、気が付いたことをワークシート(1)にまとめさせる。 ○ 解説パネルをもとに細川忠興と小笠原忠真について調べたことをワークシート(2)にまとめさせる。 ○ 徳川家と細川・小笠原両氏との関係を調べ、両大名が徳川家との結び付きが強かったことを理解させる。 ○ 模型や解説パネルをもとに教師が説明し、本州への玄関口であり、長崎街道の起点である小倉が、重要な地理的位置にあったことをとらえさせる。 ○ 豊前小倉藩に、幕府が信頼のおける大名を配置したわけについて、ワークシート(3)にまとめさせる。	博物館での学習 1時間 ◆大名配置図(1601年)(1632年) ◆国境石 ◆忠興肖像画 ◆忠真肖像画 ◆細川・小笠原氏の解説パネル ◆常盤橋及び解説パネル ◆小倉城下町の様子(模型、解説パネル)

5 博物館での学習

2 江戸時代初期の九州北部の大名配置について調べよう。

博物館での学習
1時間

江戸時代の北九州市域は、門司・小倉は豊前国小倉藩、若松・戸畑・八幡は筑前国福岡藩に属していました。北九州は本州への玄関口にあり、交通要衝の地として、大名の参勤交代、幕府役人や外国使節の往来など、水陸ともに賑わいを見せました。

「テーマ館・江戸時代の北九州」では、豊前国小倉藩の初代藩主・細川忠興と細川家が肥後国(熊本)に転封したのち、小倉藩主となった小笠原忠真の肖像画や九州北部の大名配置図、各種解説パネルなどが展示され、幕府がどのように九州の大名支配を考えていたかをうかがい知ることができます。

まず、1601年と1632年の2枚の大名配置図を比べて、気が付いたことをワークシート(1)にまとめます。

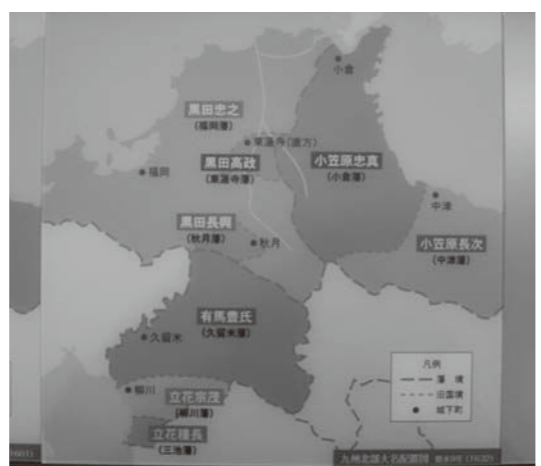
次に、豊前国小倉藩主が細川家から小笠原家に替わったことから細川忠興と小笠原忠真について興味をもたせ、解説パネルをもとに調べ、ワークシート(2)にまとめます。



国境石 (館内)



1601年の大名配置図



1632年の大名配置図



常盤橋

さらに、常盤橋や小倉城下町の解説パネルをもとに、小倉藩が本州への玄関口であり、長崎街道の起点でもある交通要衝の地であることなどを教師がわかりやすく解説しながら、幕府が小倉藩を重要な地として考えていたことをとらえさせるようにします。

最後に、小倉藩の地理的重要性と徳川家と結び付きが強い細川・小笠原両家を藩主としたことを関連的にとらえ、ワークシート(3)にまとめ、幕府の大名配置の工夫について理解を深めるようにします。

以上のような博物館の資料を活用した学習を展開することにより、幕府のとった全国的な大名配置という政策を、地元の豊前小倉の大名の配置と結び付けて考えることができます。

1 江戸時代初期の九州北部の大名配置について調べよう。

(1) 1601年と1632年の大名配置図を比べて、気が付いたことを書きましょう。

- ・1601年、江戸幕府が開かれたころは、豊前小倉藩の藩主は細川家だったのに、1632年には、小笠原家にかわっている。
- ・筑前福岡藩の藩主は、1601年も1632年も黒田家のままで、かわっていない。
- ・1632年になると、豊前国は2つの藩に分かれている。

・・・など

- 豊前小倉藩…今の小倉北区、(門司)区
- 筑前福岡藩…今の若松区、(戸畑)区、(八幡東)区、(八幡西)区

(2) 初代小倉藩主細川忠興と細川家に替わって小倉藩主となった小笠原忠真についてまとめましょう。



【細川忠興】

- ・関ヶ原の戦いで戦功のあった細川忠興は、丹後国宮津から入国した。
- ・小倉城を大改築し、城下町や社会の諸制度など、小倉藩の基礎を築いた。
- ・1620年に三男忠利があとをつぎ、1632年、細川氏は熊本にうつった。

・・・など



【小笠原忠真】

- ・1632年、細川家にかわって、播磨国明石からうつってきた。
- ・忠真は、徳川家康のひ孫にあたり、九州に最初に入った譜代大名であった。
- ・細川家とも親せき関係にあって、細川家の築いた小倉藩の基礎を発展させた。

・・・など

(3) 幕府が細川忠興や小笠原忠真を小倉藩主にしたわけについて考え、書きましょう。

- ・小倉藩は、九州と本州をつなぐ玄関口で、とても大切な位置にあった。幕府は、徳川家と親しく、信用できる大名である細川忠興や小笠原忠真を藩主にして、九州の大名たちを支配しようと考えたからである。

・・・など